

## 子安地藏を主尊とする六地藏石幢

加地 勝

今年平成二十二年五月に越谷市の久伊豆神社と市内を巡る会があり、越谷市郷土研究会副会長加藤幸一氏のご案内を頂いた。越谷市は、石仏愛好者にとつて楽しく、かつ面白い石仏が多い処と聞いており、期待を持って参加した。

蔵造りの立派な商家が多い街中を見ながら、赤山・日光街道を周り、御殿町の建長の板碑を過ぎて、元荒川を望んだ対岸に、天嶽寺の看板と、久伊豆神社の鳥居が見える。

宮前橋を渡って、鳥居を潜ると長い参道が続いている。

久伊豆神社の神池傍には、明治維新の原動力となった国家神道の礎を築いたとして有名な、平田篤胤の私塾『気吹舎』の仮庵跡がある。また、中の鳥居の前に文字庚申塔がある。三猿は三番叟を踊る。残念ながら真ん中の猿の顔が欠落している。

また、隣接の天嶽寺の門前には、九基の庚申塔（内六基が青面金剛像・二基が文字塔・一基が猿田彦大神の文字塔）と文字馬頭観音塔一基・二基の六十六部回国塔（内一基は地藏像）・二十三夜塔などが塚山状に配置されている。

見学コースも最後になり、越谷駅の近く越ヶ谷一一一の今はなき薬師堂前の路傍広場に到着し六地藏石幢をみて驚いた。

なんと、六地藏石幢前面の主尊が、『左手に子供をかかえ、足

元の衣にもう一人の子供がすがっている、子安地藏尊』である。他の五地藏は「数珠・宝珠・香炉・幡・天蓋」を持った姿である。今までも、かなりの数の六地藏石幢を拝見したつもりでいたが、私にとつて子安地藏を主尊とする六地藏石幢は初めてであり、報告するものです。



ご案内頂いた、加藤幸一氏は石仏愛好者として、著名な方であり、越谷市郷土研究会ホームページに越谷市内全地域の石仏を、手書きで絵描かれ、かつ、克明に銘文を読まれて報告されている。同ホームページの「こしがや人物発見」で、「越谷市教育委員会発行 川のあるまち 越谷文化 第18号」に掲載の加藤氏本

人の言によると、「写真では細部をとるため大量の写真が必要であり、また、どうにも撮影できないケースが多い。スケッチすることにより、その細部までじっくり見る必要から、ちよつと見ただけではわからないで見落される文字や図柄が結構解明できる。」とのこと。普段、銘文を読むのに四苦八苦している私には、心に沁みる言葉である。が、絵を描くということが苦手で、写真に頼っていることが多く反省しきりである。

加藤幸一氏がスケッチされ、越谷市郷土研究会のホームページに掲載された、当該六地藏石幢の手描きの絵姿と、同幢の説明文を転写させてもらいました。

41. 越ヶ谷 子安六地藏石幢

新町の今はなき薬師堂



子安六地藏石幢（『越谷市金石資料集』に記載なし）

所在地 越ヶ谷一―一・今はなき薬師堂前路傍南側  
石塔形式 六面石幢型（北々東向き）  
年 号 文化元年（一八〇四）

【裏面】 【台石】

（数珠を持つ地藏菩薩像）

【左側面】 文化元甲子

（宝珠を持つ地藏菩薩像） 十月吉日

【正面】

（子供を左手で抱え、右手は錫杖を持ち、  
足元では子供が地藏にすがっている像） 三界萬霊

【右側面】

（香炉を持つ地藏菩薩像）

【裏面】

（幡を持つ地藏菩薩像） 當所念佛講中

【真裏面】 せ光念

（天蓋を持つ地藏菩薩像） ワたか

人ゑん

他に同様の石幢を御存じの方がおられましたら、是非ともご教示お願いします。